

志賀原子力発電所への立入調査結果について

本日、定例の立入調査に併せ北陸電力(株)志賀原子力発電所 1号機の配管に関する肉厚検査の実施状況について調査を実施しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1 実施日時 平成16年8月11日(水)午前10時～午後1時30分

2 立入調査結果

(1)調査者等 6名

調査者 石川県(3名)、志賀町(2名)、富来町(1名)

(2)調査結果

設計段階における配慮の確認

- ・流速が6～7m/s程度以下となるよう、配管を太くしている。
- ・腐食代を2～3mm程度考慮し、40年使用後も必要な肉厚を確保できるよう、配管の肉厚を厚くしている。
- ・水と蒸気が混ざる所など条件の最も厳しい箇所には、低合金鋼(クロムやモリブデンを含む鋼材)を使用している。

点検状況の確認

- ・減肉が懸念される箇所は、復水系・給水系の配管の中でも流速条件等の厳しい箇所を選定して測定箇所を決めている。但し、流速、温度、圧力等の条件が同じ箇所については、代表ポイントを決め、減肉の傾向を把握するという手法であった。

この手法の妥当性については、更に詳細な報告を求めることとした。

- ・測定結果については、測定記録を確認し、配管の肉厚の最も薄い部分については、減肉量が最大0.2mmであることを確認した。

なお、肉厚が厚い箇所については、減肉量が0.4mmである箇所もあった。

- ・測定方法は、超音波を使用した機材により5cm間隔で格子状に測定点を設定し、点検箇所を全体的にカバーする手法となっていた。(現場にて、マーキングの状況を確認した。)

平成16年8月11日
原子力安全対策室
(直通)076(225)
1465
(県庁内線)4231